

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800078		
法人名	有限会社 ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町江上657-2 (電話) 0942-62-1330		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年11月11日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(H21年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算	13.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築 / 改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	10 名	要介護4	6 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.9 歳	最低 71 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院、森歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りは田んぼが広がり、自然豊かな環境にある。近隣には民家や福祉施設などがあり、地域の中に溶け込んでいる。ホーム内は、掃除等が行き届いており清潔感がある。室内は明るい自然の光が差し込み穏やかでゆったりとくつろげる空間となっている。管理者・職員は、理念に基づき日々のサービスを提供しており、常に理念について話し合う機会を設けている。管理者、職員の優しさやサービスに対する向上心が利用者の表情の明るさに繋がっており、穏やかな日々を過ごされていることが窺い知れた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善項目は数項目あったが、運営推進会議で外部評価の報告を行い、ホーム内で改善に向けた話し合いができています。改善計画を立て、管理者を中心に改善に向けた取り組みに対する努力が確認できた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を職員は理解しており、評価項目を全員で書き込み管理者が取りまとめている。前回の評価の結果も踏まえ話し合いを行い、ホームの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>家族代表、区長、民生委員、市職員、ホーム代表者、ホーム長、管理者、主任等が出席し、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。内容はホームの現状や行事の案内、活動報告、外部評価の結果報告等を行っている。また、地域の繋がりについて、多方面から情報や助言を受け、活発な意見交換の場となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族が面会に訪れた際に職員が声掛けし、相談や要望がないか伺うように努めている。受けた意見や要望は職員と解決に向けた話し合いを行い、ホームの運営に反映させている。また、苦情や意見などを直接言えない家族に対しては、玄関に苦情箱を設置し、表出しやすいようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には加入していないが、地域の子供達の安全を確保する為に子ども10番の看板を出し、地域に貢献している。また、小学生や中学生の職場体験を受入れるなど、地域との関わりを積極的に取っている。ホーム行事の際は地域の方々を招待し交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居された利用者が、環境が変わっても幸せを感じながら暮らせる家であるよう全職員が心に寄り添う支援を行っている。「職員の質の向上も目指す。」というホーム代表者や管理者の思いが込められた独自の理念がつけられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、リビングの目に付きやすい場所に掲示され、いつでも確認できるようになっている。管理者は月に1回のミーティングやカンファレンスで理念を再確認している。また、新人採用時には理念を書面で配布し説明している。職員は、利用者が一人ひとりに合わせた環境で生活できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と散歩をする際には近隣の方々と必ず挨拶を交わし、ごく自然に付き合いができるようにしている。ホームは子ども110番の役割を持ったり、小学生、中学生の職場体験の場を設けたり、行事に地域の方々を招待するなど、積極的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、サービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の結果に対しては、ミーティングで話し合い改善計画書を作成し現在取り組んでいる。自己評価の項目を職員が書き込み管理者が取りまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に関催され、家族代表者、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表者、管理者、主任等が出席し、ホームの現状、活動等の報告、外部評価の報告や事故報告等を行っている。地域との連携について検討され他方面から情報や助言を受け、会議を有効活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市に出向き、運営に関することや職場体験学習の企画等の相談・連絡を行い、ホーム便りを手渡している。市の行政機関とはいつでも気軽に相談できる関係になっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等に関する研修を年1回実施し職員が理解、周知できるよう取り組んでいる。パンフレットは玄関に設置し、必要な人には説明ができるようにしている。また、職員にも配布し、日頃から目を通してもらうようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、面会時に報告したり、体調が悪いときは電話で知らせるようにしている。「ほのぼの新聞」で行事や生活場면을掲載し、日頃の様子が確認できるようにしている。金銭管理に於いても、領収書を貼付し明確に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に訪れた際や月に1回の支払い時に管理者、職員が声をかけ、要望や意見等を聞き取っている。要望や意見に対しては、管理者と家族が話し合いを行い、解決している。玄関には苦情箱を設置し、いつでも要望を表出できるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は日頃より、ユニット間を行き来し、各ユニットの利用者と馴染みの関係を作るように工夫している。職員が離職する際には利用者のダメージを少なくする為に、さりげない声掛けを行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については性別などを理由に採用対象から排除するようなことはなく、人柄や介護に対する意欲を重視している。また、職員が向上心を持ちながら働ける職場作りや更なる資格取得が実現できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の年間計画で、人権や接遇等に関して設定・実施しており、全職員が学ぶ機会がある。日頃の業務に於いても、言葉遣いや対応について管理者、職員がミーティングで話し合い取り組みを行っている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームのサービスの質の向上のために、職員に必要と思われる項目について年間計画を立て、研修を行っている。研修の報告書は、いつでも閲覧出来るようにしている。外部研修については管理者から職員に案内し、必要に応じて学ぶ機会を作っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、管理者、職員が交代で参加し、他の事業者と交流する機会を持っている。また、市内のグループホームに見学に行き来したり、介護について話し合うなどして関係づくりや質の向上が出来るように取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問や体験利用により、入居前の情報を収集し利用者が徐々に馴染める環境を作っている。また、併設のデイサービスから入居を希望される場合も多く、日頃よりデイサービスとの交流を図り、ホームに馴染んでもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が人生の先輩であることを念頭に置き生活の知恵や家事、調理の仕方等を職員が教わり感謝の気持ちを忘れないようにしている。また、利用者の昔の体験談を聴き利用者を尊敬し思いに寄り添いながら日々過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族からの聞き取りを元に会話や表情、行動から思いや意向をくみ取ったり、意思疎通が困難な時は家族から情報収集するなど把握に努めているが、本人本位の思いや意向が上手く記録に表されていない。</p>		<p>本人の思いや意向を把握する為にも、センター方式の一部を活用してはどうだろうか。職員全員がシートに本人の思いや暮らしぶり、気づきを書き込むことで、更に本人本位の意向が把握できることを期待したい。</p>
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族からの聞き取りを元に、本人のできる事や生活パターンを計画に反映させている。担当職員を中心に計画作成者や家族と担当者会議を開き、主治医の意見も参考にしている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケア状況を担当職員が月に1回確認記録し、ケアカンファレンスにて話し合い見直している。また、必要に応じ随時見直しを行い計画を作成している。3ヶ月に1回サービスやケアについて評価を行っている。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の状況・希望に合わせて予定以外での緊急な外泊や通院介助など柔軟な支援をしている。また、子ども110番の看板を設置しホームを開放できるよう取り組んでいる。</p>		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医に受診し、歯科や眼科への通院介助も状況に応じ、臨機応変に行っている。また、状態の変化に応じて往診の対応もしている。協力医との連携も取れており、利用者の健康管理や緊急時の対応が速やかに行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、事業所として受入れる体制はある。利用者や家族の意向・希望に添えるよう、医療機関と連携し支援することは出来るが、現在のところ、指針や書面による意思の確認は行っていない。		重度化した場合や終末期においては、早い段階から利用者や家族の意向を確認し、必要な関係者と繰り返し話し合いながら、事業所の対応や方針の統一を図る事が望まれる。重度化に伴う意思確認書を作成し、最大のケアが行われるようにしていく事を期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へ尊重の意を表しプライバシーに配慮した言葉使いをしている。計画書や個人の記録は事務所の目に付かない書庫に保管している。利用者の写真使用や名前の掲示に於いては口頭で本人、家族に了解を得ている。		個人情報を使用する際の具体的な使用目的を書面にて提示し、本人・家族から同意書を得ることを、個人情報保護の意義からも期待したい。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはおおまかにあるが、本人のペースに合わせた対応を行い、日常の会話からしたいことや行きたい所等を把握し要望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる力を活用し、職員と一緒に調理の下ごしらえ、盛り付け等を行っている。職員は同じ食事を利用者と一緒に摂り、食事中は和やかな会話があり、楽しい時間となっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4回の入浴日と週に1回シャワー浴を設けているが、それ以外の時間でも本人の希望で入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者には、馴染みの職員が声をかけたり同性介護を主に無理強いしないよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今まで馴染んでいた家事、行事の際の利用者代表挨拶・体操時の号令や花壇作り等、本人の力を発揮できるよう支援している。また、茶道や生け花等特技を活かし職員と楽しむことや併設のデイサービスで餅つきに参加したり、役割を得るなど利用者個々の楽しみがある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や園庭での外気浴を本人の希望や健康状態に合わせて行っている。また、スーパーマーケットへ買い物に出掛けたり、時折外食の日を設け全員で出掛けている。季節に合わせて戸外での行事を企画し、花見やドライブを実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠されることなく、利用者・家族等が自由に出入りできる。事故がないよう常に職員が目配りを行い、利用者の安全管理に配慮している。また、近隣住民との情報提供や協力体制による連携も図っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回消防署と連携し実施している。消防計画マニュアル・緊急連絡網等は設備され誰もが確認できるようになっている。災害時の非常食や備品の準備もある。夜間想定避難訓練を今年中に実施する予定がある。緊急時の連携は隣の施設とも取れており、管理者が地元ということもあり協力体制は確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士である管理者が利用者個々の状態を把握し、健康管理を行っている。また、食事・水分摂取量を毎日記録し状態変化やその他に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく利用者個々が快適に過ごせる広さと工夫があり、共用のトイレや洗面所等は清潔で掃除が行き届いている。玄関はバリアフリーで段差が無く、歩行状態が悪い利用者が負担なく出入りができるようになっている。壁面には季節感のある飾りがあり、利用者が穏やかに生活できる環境作りを行っている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、愛用しているタンスや椅子、テレビ等が置かれ、本人らしい部屋で心地よく過ごせるよう工夫している。また、本人の状態に合わせ寝具にも配慮し快適に過ごせるようにしている。		